

露出した岩も興味深いですが、それ以上に関心を引くものがあります。岩に体の一部が埋まっていて、五島市がその岩自体を天然記念物に指定するほど重要なものです。

ここで見られる岩の平らな表面には、ところどころに巻き貝や二枚貝の貝殻が埋まっています。岩の中で化石化した貝というだけでも珍しいのですが、この貝は淡水貝であるという特徴を持っています。淡水貝が存在するということは、数千万年前、日本列島がまだアジア大陸と分かれていた時代に、岩のもとになった土砂の層が、ある時点で淡水に沈んでいたことを意味します。

このような貝の化石は、ここから近い長崎県内の他の場所でも見つかり、学者たちはこの地を形成した土砂の地層が、かつて大陸の浅い淡水湖か淡水川の底に沈んでいたのではないかと考えています。このような特徴により、地質学者だけでなく多くの旅行者がこの地に惹き付けられています。足を止めて、大昔に遠く離れた場所からやって来た貝の化石を眺め、そこに至った歴史に思いを馳せてみるのはいかがでしょうか。